

令和 6 年度自己評価

幼保連携型 あたか認定こども園

Ⅰ. 園の教育・保育目標

- ・進んで体を動かす（健康）
- ・自分でできることは自分でする（人間関係）
- ・自然が大好きで、動植物を大切にする（環境）
- ・人の言葉や話を聞き、自分なりの言葉で表現できる（言語）
- ・自ら様々な表現を楽しむ（表現）
- ・食べることを楽しむ（食育）

A:大変よい B:よい C:一部検討を要す D:改善を要す

評価項目	評価				対応・改善策
	A	B	C	D	
Ⅰ. 教育・保育理念					
・園の基本理念・基本方針・目標を理解している		○			目標を保育室に掲示し、研修やチェックリストを通して、園児への言葉かけや関わりの振り返りや子どもの人権について再確認する機会を持つ。
・園児の人権に十分配慮し、園児一人ひとりの人格を尊重した教育・保育を行っている		○			
2. 教育・保育の計画					
・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、理念目標を踏まえた全体的な計画に沿って指導計画を作成している。		○			全体的な計画を基に、年間、月間、週案、日案を計画し、日々の保育は日誌で振り返り、評価、反省を行っている。都度、評価、反省、改善を行い次月や次年度の計画に繋げている。検討が必要な場合は、職員会等で、より具体的に話し合う機会を持ち、質の向上、改善に努めていく。各クラスの状況は定期的に職員会で情報共有し、個別に配慮が必要な場合も話し合いの機会を持つようにしている。
・乳幼児の発達や実態に即した狙いや内容を設定し、3歳未満児は個別の計画を作成している。		○			
・社会の状況や子どもの実態、地域性等を考慮し、必要に応じて計画の見直しを行っている		○			
・PDCA（計画・実践・評価・改善）サイクルを用いて、質の向上・改善に努めている。		○			
3. 教育・保育内容					
・子どもに物事を強要したり、脅迫的な言葉を不用意に使わない。また、罰を与えたり、乱暴なかかわりが無いよう心掛けている。		○			子どもの目線で、一人一人の思いを受け止め、気持ちを尊重するようにしている。保育者は自身の言動が適切であるか、個人、園全体で振り返りや見直すよう努めている。
・一人ひとりの育ちや家庭環境を考慮し、適切なかわりをしている。		○			

・子どもに対して差別的なかわりがないよう心掛けている。		○			職員間で子どもの育ちや関わりについて話し合う機会を持ち、園全体で把握するようにしている。
・子どもの目線に立ち、気持ちや思いを大切にしながら対応している。		○			同じ年齢だけでなく、異年齢交流の機会を持ち、思いやりやいたわりの気持ちを育めるようにしている。
・一人ひとりの発達の連続性や生活の連続性に考慮して生活リズムを整え、見通しを持った保育に務めている		○			発達・発育を定期的に確認し、必要に応じて全職員で情報共有、検討を行っている。
・身近な自然や地域、社会と関われるような取り組みをしている。		○			今年度は地域行事に参加することができたが、今後は状況をみながら食育を通じた地域との繋がりを持てるよう検討したい。
・子どもが様々な物事に興味関心を示し、知的好奇心や思考力、感動する心などが育つよう心がけている。		○			
・遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。(例:社会的ルール・遊びのルール・当番活動・異年齢の交流など)		○			
4. 保健管理					
・登園時や日常の健康観察、身体測定、健康診断を実施している。		○			年2回の健康診断の他、毎月の体重測定、視力検査、聴力検査を通して、健康状態を確認している。保健指導を通して、保健や安全に興味関心を持てるようにしている。
・「健康・安全や発達の確保」を図るための学校保健計画(学校保健計画・学校安全計画)を策定し、計画に基づいて生活安全指導、避難訓練・交通安全指導を実施している。		○			毎月の避難訓練や警察や消防の立会い訓練を通して、確認と改善に努めている。
・乳幼児の病気やケガ・疾病予防等の情報提供を行っている。		○			感染発生状況はゆめねっとで保護者に情報提供している。
5・安全管理					
・事故予防・感染症予防・避難訓練・自然災害等に対応出来る危機管理マニュアルがあり、訓練や園内研修の中で活用している。		○			全職員に危機管理マニュアルを周知し、定期的に想定訓練を実施し、事故・感染症・災害に対応できるようにしている。
・安全点検(園内・保育室・遊具・ヒヤリハット)を実施し、会議を通して結果や改善点を職員が共有している。		○			改善点がある場合は、職員等で検討し、全職員に周知することで共通理解をしている。
・連携体制を表示するなど緊急事態発生時への取り組みを行っている。		○			今後は時間外の災害に関して具体的な対応について共通理解が必要である。
6. 食育					
・子どもが落ち着いて食事を楽しめるような工夫をしている。		○			アレルギー児に対しては、園全体で把握し、医師の指示に従って保護者と話し合いの機会を持ちながら定期的に確認をして対応している。
・専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子の状況に応じ、適切な対応を行っている。		○			

7. 特別支援教育					
・特別な支援の必要な子どもへの個別指導計画を作成し、職員間で問題意識の共有、連絡事項の確認をしながら支援を行う		○			加配担当職員を配置し、個別指導計画に基づき、一人ひとりに応じた支援を行い、職員会等で情報共有をしている。 必要に応じて、関係機関と話し合いの機会を持ち、施設見学や職員研修を行っている。
・発達支援に際して家庭・地域社会・関係機関との連携を図っている		○			
8. 組織運営					
・職務分担表を配布して、各係の担当、職務の役割分担を明確化し、管理責任体制の整備を図り、職員間における「報告・連絡・相談・確認」の連絡・連携体制が整っている。		○			各委員会、専門リーダーのもと、各職務で話し合いを行い、職員会での報告を行っている。 専門リーダーによる研修会を行い、業務の向上、改善に繋げている。 話し合ったこと等、報告・連絡・相談・確認をし、全職員で情報を共有するようにしている。 誓約書を基に、守秘義務とプライバシー保護に関して周知している。 児童票、要録等の個人情報記載の書類は、鍵のかかる場所に保管し、取り扱いには十分気をつけている。
・協力体制の重要性を認識し、上司の指示・指導、同僚の助言に耳を傾け、素直に聞き入れ決定事項・規則・手続き等を守ることができる。		○			
・各種文書や個人情報（パソコン・USB含む）を適切に管理し、守秘義務の遵守・情報の取り扱い方針を周知徹底している。		○			
・時間を厳守し、健康管理にも気を配り、職務に積極的に取り組むことができる。		○			
9. 研修（資質向上への取り組み）					
・キャリアアップ・更新講習・その他の研修に参加できる勤務体制をつくり、職員に適切な研修機会を確保している。		○			年齢、キャリアに応じた研修に参加する機会を持ち、教育・保育や取り組みに活かしている。 研修に参加した職員は、内容の報告や、職員研修を開くことで、園全体での情報共有、質の向上に活かしている。
・保育研究に継続的に取り組み、研修・講演会の内容は園内研修を通して還元している。		○			
・園内研修や自己評価を定期的に行い、資質向上に努めている。		○			
10. 情報提供					
・園に関する様々な情報を、園便り・保育参観・行事等を通して伝えている。		○			ホームページ、園だより、ゆめねっとを通して 毎月、子育て支援等に関するお知らせを地域に回覧し、情報を発信
・ホームページを活用し、広く周知するための工夫をしている。		○			
・園の外掲示板や回覧等で、地域の人にも情報を発信している。		○			
11. 子育て支援（地域・社会との連携）					

・様々な機会を通して子どもの様子や出来事を伝え合い、保護者との相互理解を図っている。		○			未就園児と保護者対象に園開放や行事を開催し、入園前に希望される方には園内見学を行っている。 今年度は中高生による保育体験や保育実習の受け入れにより、触れ合いや学びの機会となったと思う。
・中高生の保育体験・実習・ボランティアの受け入れに当たり、受け入れの意義や方針を理解している。		○			
・認定こども園として子育て支援が必須であることを理解している。		○			
12. 環境整備					
・健康・安全かつ快適に生活できるよう、清潔感のある環境の維持に努めている。また、日常的に点検・改善を行っている。		○			園児が健康、安全に過ごせるよう園内・園庭内等の点検、整備を行い、不備がある場合は修理、改善を行っている。 子どもが主体的に遊びや活動を楽しめるように計画的に環境を構成する。 保育材料は年齢に合わせて消毒や危険がないか確認し、安全に使用できるようにしている。
・絵本・教材・用具・用品を適切に活用し、点検・整備している。		○			
・保育者は、人的環境であることを理解し（爪を短く切る・髪型・髪色・髪が顔にかからないようきちんと結ぶなど）、清潔感のある身だしなみを心がけている。		○			